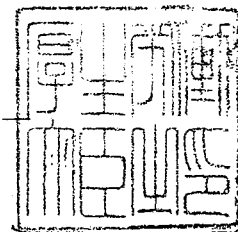


厚生労働省発食安第0918003号

平成 20 年 9 月 18 日

薬事・食品衛生審議会
会長 望月 正隆 殿

厚生労働大臣 舩添 要



諮 問 書

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき、下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

次に掲げる農薬の食品中の残留基準設定について

チアメトキサム

平成20年12月18日

薬事・食品衛生審議会

食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

農薬・動物用医薬品部会報告について

平成20年9月18日厚生労働省発食安第0918003号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくチアメトキサムに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

チアメトキサム

1. 品目名：チアメトキサム (Thiamethoxam)

2. 用途：殺虫剤

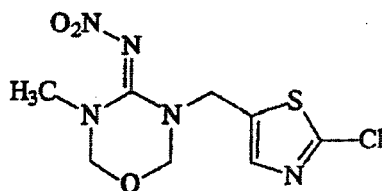
ネオニコチノイド系殺虫剤である。昆虫中枢神経系のニコチン性アセチルコリン受容体に作用を及ぼすと考えられている。

3. 化学名

(*EZ*)-3-(2-chloro-1,3-thiazol-5-ylmethyl)-5-methyl-1,3,5-oxadiazinan-4-ylidene(nitro)amine (IUPAC)

3-[(2-chloro-5-thiazolyl)methyl]tetrahydro-5-methyl-*N*-nitro-4*H*-1,3,5-oxadiazin-4-imine (CAS)

4. 構造式及び物性



分子式 $C_8H_{10}ClN_5O_3S$
分子量 291.7
水溶解度 4.1g/L (25°C)
分配係数 $\log_{10}Pow = -0.13$ (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用法は以下のとおり。

作物名、使用時期、チアメトキサムを含む農薬の総使用回数となっているものについては、今回農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

(1) 10%チアメトキサム水溶剤（顆粒水溶剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
未成熟 とうもろこし	アブラムシ類	3000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
だいず いんげんまめ							3 回以内 (は種前の塗沫処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
ばれいしょ				テントウムシダマシ類	2000 倍		25L/10a
	アブラムシ類	750 倍					
てんさい	テンサイトビハムシ	50～ 200 倍	ペーパーポット 1 冊当たり 1L (3L/m ²)	定植前	1 回	苗床 灌注	1 回
	カメノコハムシ	50 倍					
	アブラムシ類	100 倍					
	テンサイモグリハナバエ	100～ 200 倍					
だいこん	アブラムシ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	3 回以内 (は種前の作条混和は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
キャベツ		3000 倍		収穫 3 日前 まで	3 回以内		4 回以内 (粒剤の処理及び 水溶剤の灌注は 合計 1 回以内、 水溶剤及び液剤の 散布は合計 3 回以内)
		セル成型 育苗トレイ (30×60 cm、 使用土壌 約 3～4L) 1 箱当たり 0.5L	100 倍	育苗期後半	1 回	灌注	
はくさい	アブラムシ類	3000 倍	100～ 300L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (粒剤の処理及び 水溶剤の灌注は合計 1 回以内、散布は 3 回以内)

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数				
ブロッコリー	アブラムシ類	3000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、 散布は3回以内)				
カリフラワー				収穫7日前まで							
非結球 あぶらな科 葉菜類 (こまつな、ケール、 チンゲンサイを除く)		2000倍		100～300L/10a	収穫3日前 まで		2回以内	2回以内			
こまつな								3回以内 (は種時の作条混和は1回以内、 は種後は2回以内)			
チンゲンサイ								3回以内 (定植時の作条混和は1回以内、 は種後は2回以内)			
レタス								3回以内 (粒剤の処理は1回以内、 散布は2回以内)			
ねぎ	ネギハモグリバエ	1000～2000倍	100～300L/10a			収穫3日前まで		3回以内	散布	4回以内 (は種時及び植付時の作条混和は 合計1回以内、 散布は3回以内)	
	にら	ネギアザミウマ				2000倍				収穫14日前まで	3回以内
アスパラガス				収穫7日前まで	4回以内 (植付時の作条混和は1回以内、 植付後は3回以内)						
わけぎ				収穫3日前まで							
トマト	コナジラミ類	2000倍		100～300L/10a	収穫前日まで		2回以内			散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び 定植時の植穴処理は合計 1回以内、散布は3回以内)
ミニトマト											3回以内 (育苗期の株元散布及び 定植時の植穴散布処理は合計 1回以内、散布は2回以内)
なす	アブラムシ類		3000倍				100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内		散布
	コナジラミ類		2000倍								
	ミミキイロアザミウマ マメハモグリバエ										

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	
ピーマン	ミナキイロザミカ	2000倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3回 以内	散布	4回以内 (定植時の植穴処理は 1回以内、 散布は3回以内)	
とうがらし類	アブラムシ類 コナカイガラムシ類 マメハモグリバエ	3000倍						
ししとう								
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	3000倍						
すいか	ミナキイロザミカ	2000倍						
食用へちま	アブラムシ類	3000倍						
にがうり	ワタアブラムシ	2000倍		収穫7日前 まで			3回以内	
メロン	アブラムシ類	3000倍	150～ 300L/10a	収穫前日 まで		散布	4回以内 (定植時の植穴処理は 1回以内、 散布は3回以内)	
	ミナキイロザミカ トマトハモグリバエ							
ほうれんそう	アブラムシ類	2000倍	100～ 300L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (は種時の作条混和は 1回以内、 散布後は2回以内)	
オクラ								
さやいんげん					収穫前日 まで		3回 以内	3回以内
えだまめ		3000倍		収穫7日前 まで	2回 以内		3回以内 (は種前の塗沫処理は 1回以内、 は種後は2回以内)	
うこぎ				収穫3日前 まで				2回以内
エンサイ		2000倍		収穫14日前 まで	3回 以内		3回以内	

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
みょうが (花穂)	コナカイガラムシ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布 但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。	3 回以内
みょうが (茎葉)				みょうが(花穂)の 収穫前日まで 但し花穂を収穫 しない場合にあって は開花期終了まで			
モロヘイヤ	ネギアザミウマ			収穫7日前 まで			
かんきつ	ゴマダラカミキリ成虫	4000 倍	200～ 700L/10a	収穫14日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
	アブラムシ類	3000 倍					
	コナカイガラムシ類 ミカンハモグリガ コアオハナムグリ ケシキスイ類	2000～ 3000 倍					
	アザミウマ類 ロウムシ類 カメムシ類 ミカンバエ ミカンキジラミ	2000 倍					
りんご	アブラムシ類 ギンモンハモグリガ キンモンホソガ	2000～ 3000 倍		収穫7日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
	シンクイムシ類 コナカイガラムシ類 カメムシ類	2000 倍		収穫前日 まで			
なし	アブラムシ類	3000 倍		収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数		
もも	アブラムシ類	3000倍	200～ 700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内		
	モモハモグリガ	2000～ 3000倍							
	シンクイムシ類 シロアザミウマ カメムシ類	2000倍							
小粒核果類 (うめを除く)	アブラムシ類	2000～ 3000倍		収穫7日前まで	2回以内		散布	2回以内	
うめ									
おうとう	カメムシ類	2000倍		収穫前日まで					
	サトウハチロー								
いちじく	アザミウマ類	2000～ 3000倍		収穫7日前まで	3回以内			散布	3回以内
ぶどう	コナカイガラムシ類 チャノキアザミウマ								
		フタテンヒメヨコバイ							
かき	アザミウマ類 カメムシ類 コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内			
バナナ	バナナツヤゾウムシ		収穫7日前まで						
マンゴー	アザミウマ類		収穫14日前まで	2回以内		2回以内			
アセロラ	アブラムシ類		収穫7日前まで						
グアバ (果実)	バンジロウツノ エグリヒメハマキ		2000～ 3000倍	摘採7日前まで		1回	散布		1回
茶	チャノキアザミウマ								
	チャノドクヒメヨコバイ								
	コミカンアブラムシ ツマゴロアサミカ	3000倍							
セージ	コナジラミ類	2000倍	100～ 300L/10a	収穫21日前まで		3回以内		3回以内	

(2) 0.5%チアメトキサム粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
水稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	穂揃期	1回	散布	4回以内 (移植後は3回以内)
かんしょ	アブラムシ類	6kg/10a	育苗期		株元散布	1回
	コガネムシ類	6~9kg/10a	植付時		作条混和	
さといも	アブラムシ類	6kg/10a				4回以内 (植付時の作条混和は1回以内、植付後は3回以内)
ばれいしょ		3~6kg/10a				
こんにゃく	アブラムシ類	6kg/10a	培土時 (但し、 出芽前まで)		株元散布	
だいこん		4kg/10a	は種時		作条混和	3回以内 (は種前の作条混和は1回以内、散布は2回以内)
キャベツ		セル成型育苗トレイ (30×60 cm、 使用土壌約3~4L) 1箱当り 30g 株当り 1~2g	育苗期 後半		散布	4回以内 (粒剤の処理及び水溶剤 の灌注は合計1回以内、 水溶剤及び液剤の 散布は合計3回以内)
	定植時					
	ハイマダラノメイガ	株当り 2g	育苗期 後半		植穴処理	
	アオムシ				株元散布	
コナガ	培土1L当たり15g	は種前	床土混和			
はくさい	アオムシ	株当り 2g	育苗期 後半		株元散布	4回以内 (粒剤の処理及び水溶剤 の灌注は合計1回以内、 散布は3回以内)
	コナガ					
	こまつな	アブラムシ類	株当り 1~2g	育苗期 後半		
6kg/10a					は種時	3回以内 (は種時の作条混和は1回以内、は種後は2回以内)

(2) 0.5%チアメトキサム粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
チンゲンサイ	アブラムシ類 ハモグリバエ類	6kg/10a	定植時	1回	作条混和	3回以内 (定植時の作条混和は1回以内、散布は2回以内)
ブロッコリー	アオムシ コナガ ハイダラノメイガ	株当たり 2g	育苗期 後半		株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、散布は3回以内)
カリフラワー	アブラムシ類	株当たり 0.5g				3回以内 (粒剤の処理は1回以内、散布は2回以内)
レタス	ナモグリバエ		培土 1L 当たり 15g		床土混和	
非結球レタス	アブラムシ類	株当たり 0.5g	育苗期 後半		株元散布	1回
	ナモグリバエ	培土 1L 当たり 15g	は種前		床土混和	
ねぎ	ネギアザミウマ	6kg/10a	は種時		作条混和	4回以内 (は種時及び植付時の作条混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	ネギハモグリバエ	6~9kg/10a	植付時			
わけぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	6kg/10a			4回以内 (植付時の作条混和は1回以内、植付後は3回以内)	
あさつき	1回					
セロリ	ナモグリバエ	株当たり 2g	鉢上時	2回以内	土壌混和	2回以内 (鉢上時の土壌混和は1回以内、定植時の植穴処理は1回以内)
			定植時		植穴処理	
トマト	ハモグリバエ類	株当たり 1~2g	育苗期 後半	1回	株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は3回以内)
	コナジラミ類	株当たり 1g				
ミニトマト	ハモグリバエ類	株当たり 1~2g	定植時	1回	植穴処理	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は2回以内)

(2) 0.5%チアメトキサム粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
なす	ミナキイロアザミウマ マメハモグリバエ コナジラミ類	株当たり 1g	定植時	1回	植穴処理	4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の植穴処 理は合計1回以内、 散布は3回以内)
	アブラムシ類		育苗期 後半		株元散布	
ピーマン	ミナキイロアザミウマ	株当たり 2g	定植時		植穴処理	4回以内 (定植時の植穴処理は 1回以内、 散布は3回以内)
とうがらし類	アブラムシ類	株当たり 1g				
きゅうり	コナジラミ類 トマトハモグリバエ					
	すいか	アブラムシ類				
メロン	ハモグリバエ類 アブラムシ類 ミナキイロアザミウマ	株当たり 1g				
	ほうれんそう	アブラムシ類	6kg/10a		は種時	作条混和
れんこん	クワイクビリアブラムシ	収穫14日前 まで		3回以内	湛水散布	3回以内
いちご	アブラムシ類	株当たり 1g	定植時	2回以内	植穴散布	2回以内

(3) 2.0%チアメトキサム粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5L) 1箱当たり 50 g	移植前 3日 ～移植当日	1回	育苗箱中の 苗の上から 均一に散布する	4回以内 (移植後は 3回以内)

(4) 21.4%チアメトキサム水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類	5000倍	100~150 L/10a	収穫21日 前まで	2回以内	散布	4回以内 (移植後は 3回以内)

(5) 30.0%チアメトキサム水和剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
だいず	アブラムシ類 タネバエ	乾燥種子 1kg 当り 原液 6mL	は種前	1回	塗沫処理	3回以内 (は種前の塗沫処理は 1回以内、 は種後は2回以内)
えだまめ	ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ					
いんげんまめ	アブラムシ類					
あずき	タネバエ					1回

(6) 10.0%チアメトキサム・5%ルフェヌロン水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	ルフェヌロンを含む農薬の総使用回数
みかん	チャノキイロアザミウマ アゲハ類 ミカンハモグリガ ミカンサビダニ	2000~ 3000倍	200~700 L/10a	収穫14日 前まで	3回 以内	散布	3回以内	3回以内
かんきつ (みかんを 除く)	ゴマダラカミキリ成虫	2000倍			1回			
	チャノキイロアザミウマ アゲハ類 ミカンハモグリガ ミカンサビダニ							
りんご	クワコナカイガラムシ ハマキムシ類 シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ キンモンホソガ アブラムシ類	2000~ 3000倍			2回 以内		2回以内	3回以内
茶	チャノホソガ チャノミドリヒメコバイ チャノキイロアザミウマ ヨモギエダシヤク チャハマキ チャノコクモンハマキ	2000倍	200~400 L/10a	摘採7日 前まで	1回		1回	1回

(7) 0.005%チアメトキサム液剤

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	チアメトキサムを 含む農薬の 総使用回数
きゅうり	アブラムシ類	原液	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植前の植穴処理は 1回以内、 散布は2回以内)
	コナジラミ類					4回以内 (育苗期の株元散布及び 定植時の植穴処理は 合計1回以内、 散布は3回以内)
アブラムシ類						4回以内 (定植前の植穴処理は 1回以内、 散布は3回以内)
	ピーマン					4回以内 (粒剤の処理及び 水溶剤の灌注は 合計1回以内、 水溶剤及び液剤の散布は 合計3回以内)
キャベツ	コナカイガラムシ類		収穫3日前 まで	3回以内		3回以内
かんきつ	アブラムシ類		収穫14日前 まで			2回以内
うめ	アブラムシ類		収穫7日前 まで	2回以内		2回以内

(8) 0.0005%エマメクチン安息香酸塩・0.005%チアメトキサム・0.005%ジフェノコナゾール液剤

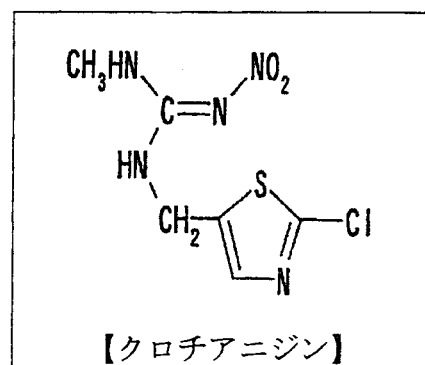
作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	エマメクチン安息香酸塩を含む農薬の総使用回数	ジフェノコナゾールを含む農薬の総使用回数			
トマト	アブラムシ類 葉かび病	原液	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は3回以内)	5回以内	3回以内			
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類 うどんこ病			2回以内							
キャベツ	アオムシ		収穫14日前まで	3回以内					4回以内(粒剤の処理及び水溶剤の灌注は合計1回以内、水溶剤および液剤の散布は合計3回以内)	3回以内	3回以内
いちご	ハダニ類 うどんこ病		収穫前日まで	2回以内					4回以内(定植時の植穴処理は2回以内、散布は2回以内)	2回以内	3回以内

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・ チアメトキサム
- ・ (E)-1-(2-クロロ-1,3-チアゾール-5-イルメチル)-3-メチル-2-ニトログアニジン
(代謝物 CGA322704 (以下、クロチアニジン))



② 分析法の概要

含水アセトンで抽出、アセトンを留去後顆粒状多孔性ケイソウ土カラムおよびカートリッジカラムで精製し、高速液体クロマトグラフで定量する。

定量限界 チアメトキサム：0.005～0.2 ppm

クロチアニジン：0.005～0.2 ppm

(2) 作物残留試験結果

① 水稲

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）したところ、散布後125、146日の最大残留量^{※1}は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

水稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）したところ、散布後125、146日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.04、<0.04 ppm

クロチアニジン：<0.04、<0.04 ppm

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（1.5kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、施用後20、21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{※2}

チアメトキサム：0.027、0.024 ppm

クロチアニジン：0.029、0.011 ppm

水稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（1.5kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、施用後20、21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.06、0.08 ppm

クロチアニジン：<0.04、<0.04 ppm

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布したところ、施用後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.078、0.045 ppm

クロチアニジン：0.078、0.026 ppm

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布したところ、施用後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.27、0.28 ppm

クロチアニジン：0.04、<0.04 ppm

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（6kg/10a）及び21%フロアブルの5000倍希釈液を2回散布したところ、施用後21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.045、0.070 ppm

クロチアニジン：0.054、0.046 ppm

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（6kg/10a）及び21%フロアブルの5000倍希釈液を2回散布したところ、施用後21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.50、0.26 ppm

クロチアニジン：0.04、0.02 ppm

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、8%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）したところ、散布後122、134日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.008 ppm

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、8%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）したところ、散布後122、134日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.04、0.06 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、8%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（6kg/10a）及び6.5%フロアブルの1000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、施用後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.096、0.086 ppm

クロチアニジン：0.064、0.076 ppm

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、8%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（6kg/10a）及び6.5%フロアブルの1000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、施用後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：2.98、1.10 ppm

クロチアニジン：0.11、0.08 ppm

②とうもろこし

未成熟とうもろこし（生食用子実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（200L/10a、300L/10a）したところ、散布後7～42日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

③大豆

大豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（150L/10a、300L/10a）したところ、散布後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

大豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、35%フロアブル（12mL/1kg種子）を1回塗沫処理、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回株元処理及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a、300L/10a）を2回散布したところ、施用後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

④小豆

小豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブル（6mL/1kg種子）を1回塗沫処理したところ、施用後126、143日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

小豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブル（6mL/1kg種子）1回塗沫処理及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（150L/10a、300L/10a）

を2回散布したところ、施用後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.014、0.022 ppm

クロチアニジン：0.008、0.018 ppm

⑤いんげん

いんげん（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.012、<0.005 ppm

クロチアニジン：0.049、<0.005 ppm

いんげん（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、35%フロアブル（12mL/1kg 種子）を1回塗沫処理、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回使用及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、175-200L/10a）を3回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.01、<0.01 ppm

クロチアニジン：0.01、<0.01 ppm

⑥ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条土壌混和（9kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a）を3回散布したところ、施用後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、0.100 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.020 ppm

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回作条土壌混和、および10%顆粒水溶剤の750倍希釈液（25L/10a）を3回散布したところ、施用後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.02、<0.01 ppm

クロチアニジン：0.02、<0.01 ppm

⑦さといも

さといも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回植穴処理及び1回株元散布したところ、散布後30～45日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.14、0.039 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

さといも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a）を2回散布したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.022、<0.01 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

さといも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回植穴処理及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.038、<0.01 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

⑧かんしょ

かんしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条土壌混和（9kg/10a）したところ、散布後112、117日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

かんしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤（9kg/10a、6kg/10a）を作条土壌混和处理を1回及び株元土壌混和处理を1回行ったところ、施用後21～42日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.012、0.006 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑨こんにゃくいも

こんにゃくいも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回株元土壌混和（6kg/10a）したところ、散布後132～159日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.01、0.02 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

⑩てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の50倍希釈液を1回灌注処理（1L/冊）したところ、処理後150～170日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑪だいこん

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回種子粉衣（4.3g/1000種子）したところ、粉衣後66～80日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.009、0.012 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.006 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣4.3g/1000種子）、0.5%粒剤を1回（作条処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：1.320、0.247 ppm

クロチアニジン：0.254、0.137 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回種子粉衣（4.3g/1000種子）したところ、粉衣後66～80日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.006、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣4.3g/1000種子）、0.5%粒剤を1回（作条処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.011、0.028 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣2.86g/1000種子）、0.5%粒剤を1回（播溝処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.358、0.378 ppm

クロチアニジン：0.136、0.122 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣2.86g/1000種子）、0.5%粒剤を1回（播溝処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～28日